

京都教育大学 F D ニュース

No. 57

2011 年 2 月 3 日

F D 委員会

平成 22 年度第 1 回学内 F D 研修会を振り返って

さる 1 月 19 日 (水) に、本学家政科准教授の湯川夏子先生を講師として、「つくる・食べる・発信する—教養科目における実践型授業の試み—」というタイトルで、今年度第 1 回の学内 F D 研修会を開催いたしました。前期学部 F D アンケート結果に基づき、学生らが意欲的に受講し満足度が高かった科目のうち、「教養科目であること」「50 名以上の受講生がいること」「実習を組み込んだ授業であること」という観点から、「生活科学」をご担当されている湯川夏子先生をお願いいたしました。

教養科目「生活科学」は今年度からのご担当とのことでしたが、「つくる・食べる・発信する—教養科目における実践型授業の試み—」というタイトルのもと、55 名の受講生を対象に調理実習を 3 回も組み込んだ熱心な取り組みについて楽しくご紹介いただきました。

最初に大学における食教育について先生ご自身の本学着任時の抱負に触れられながら他大学での食育実践型授業などのご紹介があり、全学学生に対する食生活教育として教養科目に展開するに至る経緯や背景を話していただきました。次に、具体的な授業の内容として、食の基本的な知識とスキルの習得に留まらず、「知る」(学生を知る・己を知る・食の知識) ことから、「つくる・食べる」(調理実習・自炊ブックとグッズの提供・家で作った料理レポート) へ、さらに「発信する」(生協食堂への卓上メモの作成・設置) ことに展開構成されている様子をパワーポイントや資料をもとに詳しく話していただきました。また、実践型授業のもつ時間的・労力的・経済的課題についても現状をふまえ指摘がなされました。

学生の興味関心、食生活の程度を事前のアンケートを自ら行うことによって測りながら、周到に準備と配慮工夫がなされた実習を行い、さらには事後アンケートによって学生らに行動変容を促すとともに卓上メモを作成するなどして情報発信を行うという、ねらいと構成が見事に練られた授業であり、非常に参考になる研修内容でした。食育を指導できる教員の養成を行うという先生のご熱意がひしひしと伝わってきました。



講演のあとは、熱心な質疑が時間ぎりぎりまで行われました。教授会前の40分間（ご講演30分＋質疑10分）という短い時間でしたが、今回からの初めての試みとして、教員だけではなく職員の方々にもご案内をいたしました。その結果、教員39名、職員5名、計44名の参加を得ました。

また、研修後のアンケートも20票回収され、熱心な意見が寄せられたのでいくつか感想を紹介しておきます。

＜研修会の感想＞

- ・生活の自立という意味で大変興味ある実践だった。理論的な面はよくわかったのでは是非実践したいので教職員向けの実習を行ってほしい。
- ・お話を聞いて大変勉強になりました。学生をその気にさせるための工夫がいろいろなされていて、参考にさせていただくことがたくさんありました。
- ・教養科目のあり方を考えるヒントをいただきました。
- ・授業の実感がよくわかりました。
- ・実習のあり方を考えさせられる、とても勉強になる発表でした。
- ・事前・事後アンケートによって行動の受容をみるということは知っていてもやっていませんでした。参考にしたいと思います。
- ・事前・事後アンケートなど授業の随所で学生と相互にコミュニケーションできるような場をつくっておられ、それを授業に反映されたりしているので、まさにFDの取り組みにふさわしいと思いました。
- ・実習、実践、模擬授業等には、私たち教員の多くのマネジメントが必要であることをあらため

て感じた。TA やサポーターなどを活用したいと考える。

- ・実践のすばらしさを感じました。
- ・実験・実習系科目について教材費や補助者が必要であることを大学事務局にも理解していただき、考慮してもらえるとよいと思います。
- ・このようなタイプの授業に対する大学での理解が深まればよいと思った。単なる授業の紹介ではなく、授業の理念・背景等が示されており、参考になった。
- ・教養科目で実習を行うことは大変さがともなう点がありますが、学習意欲に対し効果が高く、参考になりました。卓上メモを使った情報発信は、形を変えて他の授業にも導入可能と思われ、参考にさせていただきます。
- ・違う分野の実習の様子がわかってよかったです。
- ・ふだん接することのない授業について知ることが出来て、とっても刺激のある会だったと思う。自身の担当についても考えてみたいと思いました。

〈FD 研修や FD アンケート調査について〉

- ・出席するまでは忙しいなかで・・・と思っていましたが、参加して勉強させていただくと出席してよかったと思いました。
- ・やはり身近な先生の授業実践例を目のあたりにできる、このような研修会は受ける者、講演する者の両者にとって有意義なものであり、今後も続けて行ってほしい。
- ・このような機会はとても貴重なので有り難いです。今後も継続してやってほしい。
- ・とてもよい内容だと思いますので、定期的な開催を望みます。
- ・授業アンケートは配布はしますが、回収は本部にポストを作るなど学生に持参させるようにできないでしょうか。授業時間内で回答から回収まで時間が取れないのが実情です。
- ・今回は事務方の出席もあり、教職員の交流も必要であることを認識できた。
- ・意欲的授業を支援する大学のサポート体制を考えてほしい。

〈録画DVDの貸し出しについて〉

研修会をご欠席された方には、教務課から録画DVDを貸し出ししております。

ご希望の方はご連絡ください。連絡先：教務課教育グループ（8549）



平成22年度第2回学内FD研修会のお知らせ

第2回学内FD研修会を次のとおり開催いたしますので、是非ご出席くださいますようお願いいたします。

日 時：2月17日（水）13：30～14：10

教授会開催前

講 師：西本 有逸 先生（本学英文学科 教授）

タイトル：Flow & Depth: 私の考えるFD



「小学校英語」の授業は悪戦苦闘の連続です。
大切にしていることは、Flow & Depthですが、
フローと深さについてお話させていただきます。



後期授業アンケートの実施にご協力いただきありがとうございました。

FD研修会に関する問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いします。

FD委員会委員：岡本（委員長）、水谷（副委員長）、芝原、井上、杉井